

大阪府立大学 小型宇宙機システム研究センター
センター長 大久保博志

大阪府立大学は、アマチュア無線通信による小型衛星「まいど1号」の運用管制を6カ月以上にわたり継続してまいりましたが、10月10日午前0時36分からの交信をもってアマチュア無線地上局の運用を終了しました。「まいど1号」は、その後10日12時43分33秒に停波が完了し、すべての任務を終えました。アマチュア無線愛好家の方々をはじめ、運用にご協力をいただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

大阪府立大学は、開発当初からプロジェクトに参加し、JAXAから衛星のシステム設計・解析技術の移転を受けて、「まいど1号」のシステム設計や機器開発を学生参加で行いました。打上げ後は、学生約25名が毎日交替で運用を行い、独自に開発・搭載した太陽センサ（方位角センサ）の軌道上試験を実施しました。衛星スピン軸と太陽がなす角度（太陽角）を1度の精度で計測する基本性能が確認されています。また、同センサは7月22日、アジア・太平洋において観測された皆既日食の観測にも成功しています。

大阪府立大学小型宇宙機システム研究センターは、まいど1号の成果を継承し、今後もまいど1号の設計開発で得た知識と経験を生かし、次の小型衛星プロジェクトに向けて活動を継続します。引き続き小型模擬衛星 (CanSat) や非燃焼型小型ロケット CEES の開発、来春金星に向けて打ち上げられる相乗り小型衛星 UNITEC-1 の共同開発、関西宇宙イニシアティブ (KaSpI) との連携のもと市民参加型の小型衛星 KaSpI-1 の設計開発などの課題に取り組んでおり、今後とも関西発の新たな宇宙開発への夢を発信します。



最終運用 2009/10/10 未明